

食支援つうしん

—新宿食支援研究会通信—

第1号 2015.1.10 発行

皆さま、明けましておめでとうございます。正月におせちを食べてのんびりなさった方も多かったかと思います。食べるということは障害のない方には出来て当たり前な行為です。それなりに何とかなっている様に思えてしまうところが食べるということの盲点でもあります。痩せてきても、食べることができていると思ひ込み、つい見過ごしてしまいます。

新食研の「見つける・
つなげる・結果をだす」
という目標のなかで一番



難しいのがじつは「見つける」ことだと僕は思っています。その後につなげて結果を出すということがどういうことであるのかが判っていないと「見つける」ことができません。

新宿にはつなげれば結果を出してくれるプロフェッショナルがかなり増えてきました。つなげるためのルートも多様なものが出来つつあります。

見つけるという気付きはすそ野が広がらなくてははいけません。僕自身が関わっていた方でも、恥ずかしながら気付かずについて、他のスタッフに指摘されて食支援が始まるケースも出てきています。自分の足元もしっかり見つつ、多職種みんなで見つかりのアンテナをしっかりと働かされるようにしたいと思っています。

お雑煮の餅をのどに詰まらせずにおいしく頂ける幸せをかみしめつつ、新年のあいさつにさせていただきます。

(医師 木下 朋雄)

口腔ケアで食べられる口作り

第1回 食支援につなげる口腔ケア

ハッピーリーブス歯科衛生士の篠原です。『口腔ケアで食べられる口作り』として3回シリーズでお送りします。1回目は「食支援につなげる口腔ケア」です。

口腔ケアは口腔内細菌数を減らし口腔衛生を保ち誤嚥性肺炎を予防する効果だけではありません。食べる機能を維持・回復する効果が期待できます。きれいにした後のマッサージやストレッチなどの口腔ケアの刺激で口周囲の筋肉を動かすことで唾液分泌を促し、美味しく味わい飲み込みを良くする効果があります。ブラシ類で舌や頬、口蓋の粘膜を刺激すると誤嚥しかけた時にむせる力を高める効果もあります。食べる機能が回復してくると低栄養の改善が図られ、体力や免疫力が高まりADL向上につながります。

ご自身で歯磨きが出来なくなってしまう場合、誰かに口腔ケアをお願いすることになります。口腔介



護という言葉もありますが食べていない・発語が少ない・表情が乏しい方ほど口腔機能の低下を起こしているため口腔ケアが必要です。毎日行っている口腔ケアが食べる楽しみの回復、食支援につなげられるよう次回からポイントをお伝えしていきます。

(歯科衛生士 篠原 弓月)

食支援における地域ネットワーク構築の新たな挑戦

森岡 真也

新宿食支援研究会社会学的調査班「そしお」は、社会福祉学をベースに統計学・社会学等の手法を用いて調査や実践的研究を行うグループであり、「食支援のできる街づくり」を目標としている。

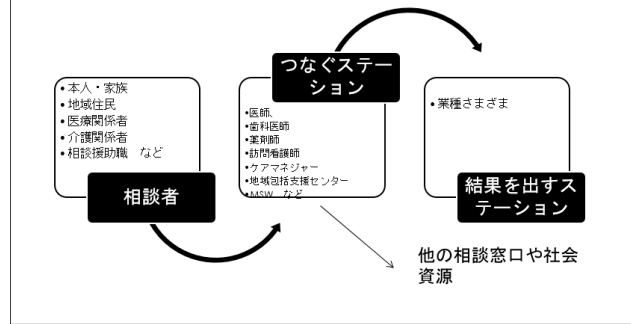
われわれは「食支援」という言語について以下のように定義した。

「本人・家族の口から食べたいと言う希望がある、もしくは身体的に栄養ケアの必要がある人に対して①適切な栄養摂取 ②経口摂取の維持 ③食を楽しむことを目的としてリスクマネジメントの視点を持ち、適切な支援を行っていくこと。チームで支援を行う場合には、対象者の個別性に基いた目標設定を行い、チームで目標を共有し、達成に向けて行動する」

「食支援のできる街づくり」のために現在2つの活動を行っている。

1つは、地域住民の主体的な参加を促し、地域での「食」に対する困り事が早期発見できる仕組み作りである。そのために、地域住民ミーティングなどに参加し、「食支援」活動の周知とニーズ調査を行っている。地域安心カフェに参加し、「食支援」活動の周知と、アンケートおよびインタビューによるニーズ調査を行った結果、比較的元気な高齢者は、自身や周囲の食に対する困りごとに気づくことはほとんどなく、食のみならず、医療・介護の困りごと全般で相談できる場所を知らないことが明らかになった。今後、調査箇所および対象者を拡大することにより別の視点が出てくると推察される。その上で、住民参加型の新しい社会資源の開発を考えている。

食支援ステーションのイメージ



2点目は、食支援を行う地域の社会資源を調査し「食支援ステーション」として登録するシステム作りである。食支援における相談機能を果たせる社会資源を「つなぐステーション」、様々な分野で実際に食支援を行う社会資源を「結果を出すステーション」とし、各事業所に個別インタビューを行い、具体的な取り組みを聞き取り選定した。登録事業所の職種は様々であり、食支援に関わる職種がいかに多いかが推察される。今後の取り組みとしては、「食支援ステーション」登録の明確な基準作り、さらに他職種の登録に向けた仕組み作り、単なる名簿化で終わらせない「食支援ステーション」の啓蒙活動が必要となってくるであろう

第51回新食研勉強会のご案内

やりますっ！

～あると助かる配食サービス～

講師：栗原 哲也 (ライフデリ東京本店)

日時：平成27年1月17日(土)

午後6時30分～午後8時15分

場所：東京在宅サービス

新宿区新宿1-5-4YKB マイクガーデン3階

参加費：500円

定員：約70名

申し込み先：担当；安田

E-mail yoshiko.yfsg@rg8.so-net.ne.jp